

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 2 日現在

機関番号：34506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520786

研究課題名(和文) 荘園制の地域特性と内乱

研究課題名(英文) Regional features of "shoen" and the civil war in early medieval Japan

研究代表者

佐藤 泰弘 (SATO, YASUHIRO)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：30289011

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：日本の中世成立期における荘園の特徴は、荘園現地の支配者と中央の領主との関係だけでなく、地域社会の交通・社会・経済の体系における荘園の位置づけによって決定される。12世紀に地方行政長官である受領が在京化することによって地方の行政拠点である国衙への求心力が低下した。そして、大規模な荘園は地域の政治・経済の拠点として地域のネットワークを構築し、小規模な荘園はそのネットワークに依存することで存立したと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The features of "shoen" in early medieval Japan were determined by its location in the traffic, social, and economic network of the local area as well as by the relationship between its local ruler and the urban lord. As "zuryo", the chief provincial officer, came to stay in the capital area in 12th century, the centripetal force of the provincial government "kokuga" dropped. So the larger "shoen" built up the local network as the political and economic center in the local area. And the smaller one depended on the network made by the larger one.

研究分野：日本史

キーワード：荘園 内乱 交通 地域史 平安時代

## 1. 研究開始当初の背景

荘園制は日本中世の政治・社会の体制を基礎づけるシステムである。それは平安時代末期に形成され、度重なる内乱や公武関係に影響されながら、戦国期まで続く。

近年の荘園研究が明らかにしてきたことは、王家・上級貴族(天皇・院・女院・摂関家)が立荘を主導すること、立荘には知行国主や国衙との関係が重要であること、荘園の内部が年貢の収取において複合的構造を取ることなど多岐にわたる。しかしこれらの論点は上級領主権とその収取権を基軸にしているため、地域性が十分に考慮されているとは言い難い。荘園研究を次の段階へと進めるためには、荘園を地域社会の中でとらえ直すことが必要であろう。

その一方、1980年代から荘園の現況調査が進むとともに、荘園や村落における環境・生業への関心が高まっている。これらの研究は地域性を重視しているが、個々の荘園に止まるものが多い。そのため個別荘園の研究が深まっているものの、荘園制の全体像がとらえることが難しくなっている。

荘園制の全体像をとらえる視角には、貴族の保持する荘園群という観点があるが、それは中央からの視点に偏っている。地域性にも目を向けたものとして、研究史のうえでは、荘園の類型論がある。その一つは荘園の内部構造の研究から生まれたものであり、畿内先進型・中間地域型・辺境型という発展段階論的な類型を設けるものである。また荘園領主との関係から、膝下型・中間型・遠隔地型として区別するものもある。さらに地域に即して畿内近国・東海・北陸・東国・西国・九州のような地域区分を用いることもある。これは地理的環境・産業などの地域性に配慮しているものの、やや便宜的に用いられている。

これらの類型は一定の根拠があるものの、近年

の荘園研究では参照されることが少なく、また荘園がある地域の自然環境や政治的・社会的環境を考慮したものとは言い難い。荘園の地域性を広域的・総体的に把握することが必要である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、自然的・地理的条件に基礎づけられ、政治的・社会的条件によって規定された荘園の特質を地域特性として捉え、それを一定の基準で類型化することによって、荘園制の特徴を記述することである。

日本中世は荘園制社会と呼ばれているが、その成立過程において治承・寿永の内乱が起きている。荘園制の成立と内乱の全国化とに関係があるのか否かは、平氏政権をめぐる政治過程以上には十分な説明が与えられていない。平安末期から鎌倉期に注目することで、荘園制と内乱の関係を考える手がかりを得たい。内乱という非日常的な状況では、日常的に潜在している社会の特徴が表面化することが予測される。

## 3. 研究の方法

本研究は荘園制を総体的にとらえ、荘園の新しい類型化を目指すものである。そのため個々の荘園研究を進めるというよりも、先行研究に学びながら総括的な検討を進める。

しかし総括的であるとしても、それは具体的な事実に基づいている必要がある。そこで個別荘園や一定の地域に即した検討を進めるため、荘園の故地や立地条件を広く観察するためのフィールドワークを実施する。

研究代表者は、畿内・山陰の荘園、平安時代から鎌倉時代への推移を担当する。2名の研究分担者のうち、高橋昌明は院政期から鎌倉初期における畿内近国・西国の荘園を担当し、高橋一樹は院政期から鎌倉期における東国を担当す

る。また個々の研究状況を共有するため研究会を持つほか、フィールドワークの機会を利用して研究会を持ち進捗状況の報告や意見交換を行う。そのような作業を積み重ねながら、研究代表者が総括的な検討を担当する。

#### 4. 研究成果

##### (1) 基準としての交通関係

荘園の地域性を確認するために、2012年に高知(土佐)、2013年に鳥取(因幡・伯耆)および和歌山(紀伊)、2014年に静岡(遠江・駿河・伊豆)と、日本の異なる地域でのフィールドワークを行った。その過程において、荘園の地域性を理解するためには、交通・流通など地域内・地域間におけるネットワークが重要であることを認識した。荘園制の地域性をとらえる基準として、当初は各地の産業や集落構造を想定していたが、交通関係を基準にする方が汎用的である。また国衙の立地において、水上・海上交通が重要であることを確認した。

##### (2) 内乱にみえる地域の政治・社会的特質

治承4年に起こった駿河国の鉢田合戦は、甲斐源氏の武田信義を遠江国目代の橘遠茂が迎え撃った。駿河国の中央を流れる富士川は甲斐国への交通路であった。遠茂は当初、富士川より西の興津で迎撃することを計画しており、その動員力は駿河国府のある西部に限られていた。駿河国内の地域性は隣国との交通関係に大きな影響を受けていたと考えられる。

伯耆国は平氏の知行国であり、一ノ谷合戦では小鴨基康(小鴨介基保)・村尾海六成盛(海成盛)・日野郡司義行が平家に従っている。このうち小鴨基保と海成盛が伯耆国を東西に二分していた。両者はともに平氏方であるが、合戦に及ぶこともあった。基保は有力な在庁官人であり国衙

のある東伯耆を押さえていた。成盛は西伯耆が勢力圏であり、出雲・石見・備後から与力を集めている。伯耆国は大山が東西を分けており、東伯耆は中国山地を越えて美作・備前へつながり、西伯耆は備中・備後へと至る(錦織勤『鳥取県史ブックレット 12 古代中世の因伯の交通』鳥取県、2013年)。伯耆国でも隣国との交通関係が重要な要因となっている。成盛の名字である村尾は日野郡の地名にみえるが、会東郡地主とも見えており、本拠は会見郡にあったと考えられる。

内乱のなかで一国内の勢力分布が浮かび上がる例としては越後国の城氏の例が知られていた。そのような事例は各地にあったと考えられる。

##### (3) 国衙と荘園

若狭国では国府に近いところに在庁官人の別名が集中し、荘園は国内の縁辺に存在することが知られている。越後国でも12世紀前半に国府近辺にあった東大寺の荘園が国内の縁辺に移転させられている。荘園の配置には国衙の意向が働いており、それが国内の政治的・社会的な環境を反映していると予想していた。伯耆国でも、国府の周辺である久米郡八代郷に荘園は少なく、国府から離れて王家領・摂関家領・寺社領が見える。その点では若狭・越後と同じである。しかし伯耆国の勢力圏は、国府の周辺とそれ以外という区分よりも、伯耆国の東西という区分が規定的である。

一国内における荘園の設立とくに院政期における大規模荘園の立荘は、国府近辺を避けて国府から離れた地域を選好する傾向があることは確かである。官物・年貢および雑役などの収取は権益が排他的になる傾向が強く、国衙・在庁官人と荘園領主との利害関係を顕著に反映する。しかしそのような収取関係からは、伯耆国を東西に分けたような地域の政治的・社会的関係は見

えてこない。内乱期に見えてきたことは、荘園か国領かという枠組みではなく、一国を大きく分けた勢力圏である。それは荘園制という枠組みを相対化する、地域の政治的・社会的な秩序である。

#### (4)水運・海運と陸運

伯耆国府は天神川の支流に近接しており、天神川を用いた水運と関係が深い。天神川の河口部に位置した東郷荘は伯耆国府や日本海側の水運における要衝であった。伯耆から京への輸送は海路・陸路が併用されており、11世紀前期、伯耆守藤原資頼は布のような軽物を中国山地を越える陸路で、米のような重物を若狭経由の海路で送っている(錦織前掲書)。

承安4年(1174)、後白河院領伯耆国久永御厨から送られた物資を、若狭国の在庁官人である稲庭権守時定が抑留した。この事件からは、伯耆から若狭を経由して京へと物資が輸送されたこと、国衙(在庁官人)が港湾を管理していたことを示している。

瀬戸内海沿岸では、賀茂社領安芸国竹原荘のように海運の拠点としての機能を担った荘園が多い。しかし山間部の荘園も多々ある。そのなかで注目したいのが、後白河院領として立荘された備後国太田荘である。太田荘のある世羅郡は備後の山間部に位置しているため、立荘にともない、仁安3年に尾道村が倉敷に設定された。太田荘の経営が軌道に乗るのは鑿阿による荘園経営の刷新をまたねばならないが、年貢輸送のため沿岸部に拠点を確保することは立荘時から重要であった。ただし倉敷は港湾の納所であり、津それ自体は国衙が管理していた可能性もある。しかし倉敷の設置を契機として尾道津が発達し、荘園の管理下に置かれたのである。

高野山の参詣路に位置する紀伊国の南部荘は、海岸部から内陸に広がる大規模な王家領荘

園であり、下司は熊野別当家(田辺家)の湛快から、熊野別当湛増へと継承された。南部荘の重要性は参詣路とともに港湾にあると考えられる。

しかし規模の大きな荘園であっても、倉敷を確保しているわけではない。備中国新見荘は山間部の荘園であるが、沿岸部に倉敷を持っていない。しかし新見荘には市場があり、それは中国山地の南北を結ぶ場所でもあった。交通という観点から見た場合、新見荘は備中国の高梁川の上流域にあって伯耆国に接しており、峠を越えて伯耆国の日野川の上流域に出ることができる。室町期になるが、新見荘の田所であった金子衡氏は自らの一門が「日野・伯耆・備後・当国」に多いことを誇示している(『講座日本荘園史9』)。伯耆国日野郡がとくに「日野」として言及されていることは、新見荘に隣接する日野との強い結びつきを示している。

#### (5)地域性の発生

諸国において荘園は濃淡を持ちながら分布している。しかし地域では荘園・国領という枠組みではなく、一国を二分するような広域の枠組みが存在した。それは平氏方・反平氏方というような中央の政治情勢に影響されたものではなく、地域の事情に根ざしたものであったと考えられる。一国内が平氏方・反平氏方に分かれるのであれば、それは地域の対立構造が潜在している故であろう。

ここで考えるべきは、一国を分ける要因は何かということである。

それは第一に、国内における「人々のつきあいの範囲」ではなかろうか。この人々として想定されるのは、荘園・国領の下司・公文などの荘公下職である。とくに荘園の下職は立荘によって生み出され、個々の荘園領主によって補任された。彼らのネットワークは史料に見えることが少ないもの

の、確実に存在したと考えられる。それが国内の勢力圏の基盤となっていたはずである。

第二に、国内に勢力圏が生じる理由は、院政期における国務の構造的強化(=受領在京の常態化)と大規模荘園の立荘であろう。摂関期までは受領による一国的なネットワークが強く保持されていた。個別的・分散的なベクトルは受領の統合が強く作用したために顕在化しなかったと思われる。しかし受領が在国しなくなり、また、荘園制の成立によって受領に収斂しない荘園の所職(下司・公文等)が成立する。国府への一元的な求心力が弱まるとともに、国内のネットワークが多分化し、その結節点に位置する者を軸とした勢力圏が展開するのだろう。

第三に、一国内における勢力圏が、国境を越えたネットワークを形成していることがある。海成盛に出雲・石見・備後の武士が与力したのは、成盛が国衙公権を持っていたからではなく(むしろ国衙公権は小鴨基保にあった)、何らかの軍事動員権を握っていたからでもない。それは日常的な「つきあい」というネットワークによるものであろう。

第四に、国内(もしくは国内外)におけるネットワークの形成範囲を規定しているものは何だろうか。一つには地理的な要因をあげることができる。地理的に規定された空間構造は、道・川などの交通経路を規定する。それは地域の生活圏・経済圏であり、地域と地域を結ぶ広域の生活圏・経済圏へとつながっている。つまり地政学的な要因(気候も含めた自然条件)が、生産から消費までの生活、そして流通を規定していた。

#### (6) 荘園の地域特性と荘園類型の再検討

荘園の類型を考える場合、従来は荘園領主との関係や村落の構造が基準とされてきた。それに対し新しい荘園の類型を追求しながら、交通

関係に注目することによって、個々の荘園類型には収まらない地域秩序を見いだすことになった。そこから改めて、荘園類型について考えてみたい。

交通体系への関わりをもとに荘園の類型を考える必要がある。津・宿・市の存在に注目することによって、地域社会のネットワークや都鄙間交通における荘園の位置づけを組み込んだ荘園類型を考えてみたい。

#### 第1: 広域の交通拠点を持つ荘園

市・宿を持つ荘園(①)

津・湊を持つ荘園(②)

#### 第2: 広域の交通拠点を持たない荘園(③)

地方の大規模荘園になると、それ単体として拠点機能を含んでいる。しかしそれらの中には、より広域における地域拠点として機能するものが現れる。

陸上交通路の結節点である市や宿は領主が立てる。荘園の領域に交通の要衝を含み、そこに市や宿を立てた場合、その荘園は広域のネットワークの中心になる(①)。

一方、陸路の渡河点である津や水上交通・海上交通の港湾のうち、主要なものは9世紀から国司による管理が行われている。その多くは院政期にも国衙・在庁官人が支配したと考えられる。交通路が領主の支配に属さないのは、そのような理由による。しかし荘園が港湾を取り込んで成立したり、港湾の管理を国衙から引き継ぐこともあったと考えられる。また荘園の領域内に新たな港湾が設けられることもあっただろう(②)。

上記の①②は排他的ではないが、それらは一定の規模を持った荘園であろう。重要な点は、広域の交通機能を持たない荘園(③)が、交通関係においては①②に従属すると考えられることである。それによって地域のネットワークと勢力関係が構築されるのではなかろうか。

交通機能を確保することは、荘園領主にとって、年貢輸送を確実にすることであった。しかしそれは荘園の下司・公文などにとっては、地域社会におけるネットワークを構築し、地域での勢力を確保することになった。

この荘園類型をもとに内乱における下司・公文の動向を類型化すると、①②が地域の勢力圏を形成し、そこに③が糾合されるというパターンを想定することができる。

立荘は荘園の所職を生み出すことで地域の秩序を再編する。彼らは国内の名士して荘園を代表し、地域ネットワークの担い手となった。荘園の設立には、そのような地域ネットワークの再編が含み込まれている。

このように考えるならば、鎌倉後期における悪党のネットワークは、流通や交通の発達によるところがあるとしても、すでに平安末期には成立していたのではなかろうか。このような荘園類型を立てることによって、荘園制の研究を広い領域へと開いていくことができる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

1. 佐藤泰弘「出挙から農料へ」『日本史研究』(査読有)641、2016年、3-19頁。
2. 佐藤泰弘「中世前期における信用取引と荘園制」『歴史学研究』(査読有)928、2015年、2-10頁。
3. 高橋昌明「西行と南部荘・蓮華乗院」『西行学』(査読無)5、2014年、4-17頁。
4. 高橋一樹「地頭下文の基礎的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』(査読有)182、2014年、29-43頁。
5. 佐藤泰弘「日本中世の手形—新見荘の割符について—」『史林』(査読有)96-5、2013年、1-35頁。

6. 高橋昌明「六孫王神社は源経基邸を起源とするか?」『立命館地理学』(査読有)25、2013年、37-46頁。

7. 高橋昌明「高野山根本大塔領大田荘の始動と鑿阿の動き」『学習院史学』(査読有)51、2013年、1-21頁。

[学会発表](計3件)

1. 佐藤泰弘「受領の支配と地方の都市」第32回条里制・古代都市研究会大会、2016年3月5日平城京跡資料館(奈良県・奈良市)。
2. 佐藤泰弘「撰関期の在地社会—受領・郡司・負名—」日本史研究会3月例会、2015年3月29日、池坊短期大学(京都府・京都市)。
3. 佐藤泰弘「東大寺の封物収納をめぐる」第10回東大寺要録研究会、2014年9月21日、東大寺ミュージアム(奈良県・奈良市)。

[図書](計2件)

1. 高橋昌明『京都〈千年の都〉の歴史』岩波書店、2014年、288頁(単著)
2. 高橋一樹『東国武士団と鎌倉幕府』吉川弘文館、2013年、285頁(単著)

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

佐藤 泰弘(SATO YASUHIRO)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号:30289011

(2)研究分担者

高橋 昌明(TAKAHASHI MASA AKI)

神戸大学・人文学研究科・名誉教授

研究者番号:30106760

高橋 一樹(TAKAHASHI KAZUKI)

武蔵大学・人文学部・教授

研究者番号:80300680